

ぼうさい通信 Vol.100



毎月16日は「防災教育啓発の日」

令和8年7月16日発行
熊本県立湧心館高等学校

今月のテーマ 「梅雨の終わりに備えて」

梅雨末期は、九州から関東ではおおむね「6月下旬から7月中旬ごろ」にあたることが多い時期です。太平洋高気圧が強まり始め、その縁に沿って暖かく湿った空気が大量に流れ込むことで、梅雨前線の活動が一段と活発になります。

そこで今回は、梅雨末期における留意点をまとめてみました。

「集中豪雨と線状降水帯の発生」

梅雨末期は、一年の中でも特に「集中豪雨」が起こりやすい時期です。日本付近に停滞する梅雨前線に向かって湿った空気が流れ込み続けると、同じ場所で雨雲が次々に発生・発達し、線状降水帯となって非常に激しい雨が数時間以上続くことがあります。

「局地的大雨とゲリラ豪雨」

気温が高くなる梅雨末期から真夏にかけては、大気の状態が不安定になり、短時間で狭い範囲に猛烈な雨が降る「局地的大雨」いわゆるゲリラ豪雨も増えます。数十分～1時間前後で数十ミリの雨が降り、都市部では浸水や交通障害を引き起こすことがあります。

「気をつけたいポイントは」

梅雨末期の天気は、年によって差はありますが、共通する「危ない特徴」がいくつか見られ、次のような災害リスクを高めることになります。

- ・ 河川の急な増水や氾濫
- ・ 土砂災害、土石流やがけ崩れ
- ・ 都市部の内水氾濫、地下空間やアンダーパスの冠水



「早めの避難行動を心掛けましょう」

気象庁の「大雨警報」や「線状降水帯に関する情報」が出た場合は、『新たな防災気象情報』の色分けされた警戒レベルに注意し、早めの避難行動をとり自分自身の命と家族の安全を確保してください。

※落雷の可能性が高まっている地域を地図で確認「雷ナウキャスト」



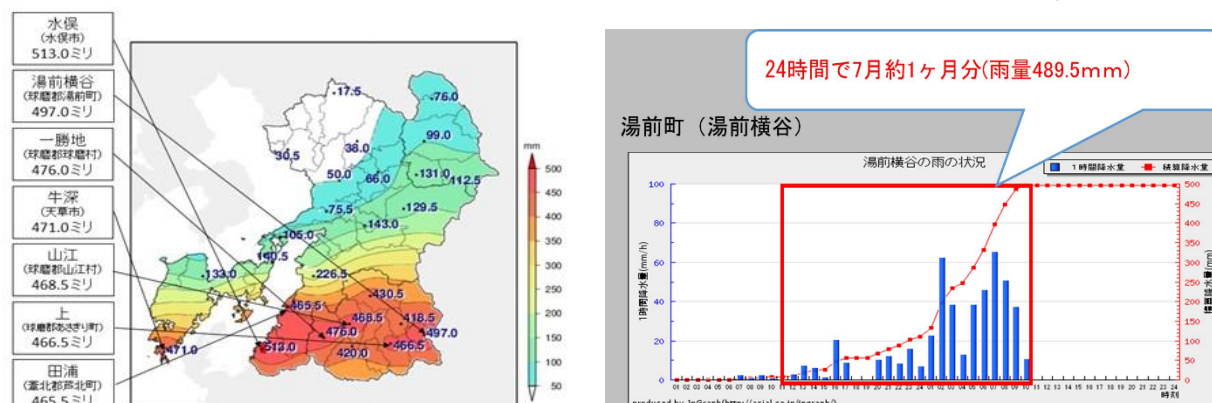
※大雨による危険度を地図で確認「キキクル」



「令和2年7月豪雨を教訓としてつないでいきましょう」

概要；令和2年7月3日夜、梅雨前線が九州北部地方まで北上し、低気圧や前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、九州では大気の状態が非常に不安定となり、記録的な大雨となりました。特に球磨川流域では線状降水帯が形成され、時間雨量30mmを超える激しい雨が、7月4日未明から朝にかけて8時間にわたって連続して降り続けました。

球磨川の中流部から上流部および最大支川の川辺川の各雨量観測所における降雨量は、6時間雨量、12時間雨量及び24時間雨量において、戦後最大の洪水被害をもたらした昭和40年7月洪水や昭和57年7月洪水を上回る降雨を記録しました。



特徴；・6日間に9回の線状降水帯が発生

・24時間の降水量が観測史上1位

・全壊1,620棟、半壊4,509棟、床上浸水1,652棟

・84名の人命を奪う（うち熊本65名）

対策；自分の命、大切な家族の命を守るために次のサイトを一度確認し、情報収集と避難時の行動確認、避難時の物資を備えておくことが大切になってきます。

・熊本県HP「防災総合案内」

・熊本市防災サイト

・熊本県統合型防災情報ホームページ

・国土交通省「川の防災情報」

「本校の立地における状況」

本校周辺は、地域の洪水ハザードマップの想定浸水域に該当しており冠水の危険があります。また、緊急時の避難については、登校後から下校時まで各教室等の2階以上で待機することになっています。

併せて、災害発生時の生徒引き渡しについては、令和8年6月に「災害発生時の保護者（車両）の動線について」の案内を各課程より発信しております。万が一の際は、混雑の緩和のためにご協力をお願いいたします。

本号をもって、発行100号となりました。

いつ発生するかわからない災害（地震・雷・火事・洪水等）に対する情報を可能な限り提供してまいります。今後ともよろしくお願いいたします。【文責 全日防防災担当】

過去のぼうさい通信を見ることができます ◎ぼうさい通信（毎月16日発行）

本校HPにアクセスしてみよう。 <https://sh.higo.ed.jp/yusinkan/>

くまもとマイタイムライン（デジタル版 マイタイムライン）は、

<https://portal.bousai.pref.kumamoto.jp/timeline/#/>で作成可能です。